



市議会議員
砂田喜昭
Tel 67-4322



衆議院議員
藤野保史

参議院議員
たけだ良介

参議院議員
井上哲士

衆議院議員
笠井あきら

2020年平和行進 小矢部に

なくそう！核兵器



「日本も核兵器禁止条約に参加を」アピールする行進団 国道8号線西中野交差点

被爆75周年。国民平和行進が6月9日、核兵器廃絶を求めて小矢部にやってきました。
今年も、新型コロナウイルスの感染防止を第一に考え、例年のように隊列をつくっての沿道の皆さんに訴える行進は自粛し、すべての自治体を代表団の訪問で結び、「核兵器をなくせ」の被爆者の願いを訴えるやり方になりました。6月4日に朝日町役場前を出発し、8日は高岡市や射水市、氷見市、9日は砺波市、南砺市を訪問し、小矢部市へ到着しました。このあと富山←ヒロシマコースのリレー旗は6月14日に石川県へ引き継がれます。

被爆者の 願い

核兵器禁止条約で「やっ」と一筋の光が」 「各国政府の決断を促す市民の行動を」

小矢部市役所玄関前で小矢部市と行進団の交流会が開かれました。市長（代理）から「唯一の被爆国として、核兵器廃絶の声を伝えていかねばならない」と激励のあいさつがありました。市長、議長からヒロシマへ届けるタペストリーと激励金が、国民平和行進富山県実行委員会責任者の原田清美氏（新日本婦人の会富山県本部）に手渡されました（写真下）。



市長、議長からの激励を行進団へ

富山県被爆者協議会の前会長、田島正雄さんの被爆体験記を、小矢部平和委員会の八尾三紀夫氏が朗読しました。

行進団を代表して原田氏があいさつしました。「沿道で手を振ってくれた人たちの思いをヒロシマへ届けたい。4月にニューヨークで、海外で初めての原水爆禁止世界大会が予定されていたが、コロナでオンライン世界会議となった。被爆者の和田征子さんが『二度と私たちのような被爆者を出さないように』、日本や核保有国などが反対している核兵器禁止条約について、『やっ」と一筋の光が入ってきた。この扉をもっと広く開けるのは各国政府の決断であり、それを動かす市民の行動だ』との被爆者の訴えを紹介しました。そして「岩手県では『日本も核兵器禁止条約に批准を』の意見書が100%の自治体で採択された。富山県での意見書採択に小矢部市もがんばって欲しい」と呼びかけられました

核兵器禁止条約に日本も参加を！

国道8号線で県内外の皆さんにアピール

このあと参加者は、道の駅メルヘンおやべと三井アウトレットパーク前の国道8号線交差点でスタンディング・アピールを行いました。「被爆者とともに核兵器のない世界を」「ふたたび被爆者をつくるな」と横断幕やパネルを掲げて呼びかけました（写真上）。

環境センターにカーブミラー設置

読者の訴えに砂田市議動く

庭木剪定枝などの持ち込みが増えたため、小矢部市環境センター（矢水町678-2）の入り口付近が混雑しています。
ある「んぶん赤旗」読者の方から、矢水町方面（南側）から環境センターへ進入しようとしたら、計量台から下りて道路に出ようとする自動車が見えず、ぶつかりそうになった」との訴えが寄せられました。

相談を受

けた砂田市議はさっそく担当課で、入り口にカーブミラーを設置するよう申し入れていただきました。それがこのほど設置されました（写真下）。



環境センター入り口に設置されたカーブミラーを矢水町方面から見る

綾子方面からはUターンして進入を

綾子方面（北側）から環境センターへ進入するには右折となり、右折レーンがないため交通が混雑します。そこで市では一旦環境センターを通り越しUターンして矢水町方面から進入するように協力をお願いしています。

庭木の剪定枝の出し方

少量（3袋以内）の直径10センチメートル、長さは50センチメートル以内の木くず、木の葉であれば、地区の可燃ごみの収集に出すことができます。

一度に3袋超える場合は、直径20センチメートル、長さ1・5メートル以内のものを市環境センターへ持込んでください。

剪定枝は細かいチップ状に破碎し、堆肥化処理し、リサイクルされるため不純物は入れないでください。木の株、太い幹、シュロの木は持ち込めません。

持込手数料は10キログラムにつき70円です。

